

スマートシティの実現に向けた技術提案書

様式1

提出年月日： 令和2 年 2 月 27 日

提案団体名： ゴールデンバーグ株式会社 (複数団体による提案も可とします)

○提案内容

(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等

※スマートシティの実現に資する技術については、別紙の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください

技術の概要・実績等	技術の分野
(1) 当社主幹技術であるセンサーの実績を活用し街で暮らしを営む人の流れを分析し、交通計画の検討をするための手段のご提供とわたくしはもともとマイクロ回線を使った防災無線の経験もあることから5Gやローカル5Gの通信業者様と協業してしながら、重要ポイントにおける画像情報提供や緊急避難場所での遠隔医療などのシステム構築を行っていきたくと考えております。	(1)
(2) 当社ではAI技術を使ったスマートショーケースや鍵開閉装置の実績と現在進めている高齢者見守りでの転倒防止や認知症の方の突然の外出防止にAIの活用を行っています。その実績を踏まえて、カメラから得られたビックデータをAI解析分析を行い、スマートシティに活かしたいと考えております。	(2)
(3) 当社の持っている通信技術を使いGPSやセンサーを活用することで、位置の特定が必要とされている認知症高齢者や見守りが必要な子供に持たせることで、軌跡データが取れるのと街で生活している方にも持っていただければ都市活動の解析分析にも効果を発揮することができます。	(3)
(4) 当社では上記の技術をアクティブなシルバー高齢者から認知症高齢者そして同居家族に役立つインテリジェントミラーの開発を行っており、現在進めております。この装置は、普段は子供には勉強やゲーム、母親ならば化粧、シルバー高齢者でしたらフィットネス、認知症初期の高齢者ならばその診断と進行を遅らす知能運動などは一台の装置で行えます。また、地方の過疎化対策として無人決済機能付AIスマートショーケースも開発を進めており、道の駅などに設置することで、農家の方がその在庫や売れ行きを遠隔でその情報が取れ、決済も自動に行えます。農業従事者の高齢化対策にも活用ができるものと進めています。	(6)

解決する課題のイメージ	課題の分類
(1) 健康医療特に独居高齢者と認知症高齢者がスマートシティとして解決しないと考えると、その対策としてはコミュニティを作り交流の場を設けることですが、外出もままならず、また、人に会うのも面倒になることが高齢者には特にあるので、自宅に居ながらコミュニティに参加ができれば、介護スタッフ及び遠方の家族とも双方向で画像をみながら話ができる環境が必要であるという事から当社ではインテリジェントボードの開発を進めています。外観は鏡であるので家に置くことには抵抗がなく、ミラーの裏側にはデバイスが実装しており、常時電源が入っているが普段はミラとして表示し、モーションセンサーが起動したらデバイスの画面に切り替わるもので、車いすの方やベッドで寝た切りの方でも運用ができます。このようなことが解決する課題です。	(カ)、(ク)
(2) 農業従事者の高齢化により農業生産の低下となることから、今までは農業の作業が経験の比重が多く、新規に農業を志しても経験がない場合には農業を教える学校などに行って学ぶ必要があったが、センサー技術とモニタリング技術を農業に用いることで数値で農業の作業が分かるようになることで、新規農業参入者の弊害が減るものと思えます。しかし、現状は導入コストが高額となるため当社では、安価なシステム提供を目指しています。このように農業の跡継ぎ不足という問題が解決する課題です。	(キ)
(3) スマートシティにおいて住みやすく安全な環境が必要という事で、当社ではセンサーなどを駆使し、また、AI技術を使った不審者の発見や住宅の出入りなどを防犯で考え、上記ビックデータを活用して、人の流れを解析・分析して人の流れをスムーズにするのに必要なインフラ整備に活用していただけるようにし、また、災害時には、避難などで混乱をしないように人の流れを誘導することに活用できるように考えています。平時の人々の動きや緊急時の人の動きを混乱がないようにすることが解決する課題と言えます。	(ア)、 (ウ)、(ク)

(3) その他

街の活性化に必要なのは、農業を抜きには考えられないと思います。解決すべきことは、農業従事者の高齢化だと思います。当社は、農業従事者の高齢化については、若い方の農業希望者を増やには、魅力ある街づくりが必要で、そのためにはスマートシティまたはコンパクトなまちづくりが必要とお考えます。住みやすい街とは、住宅について当社が進めている何もしなくても快適な住宅環境が得られるスマートホームの導入と目指しています。特に若い人は、最新のIoTに興味を持っていて、その最高技術を使った住宅及び街に住むことできると思えば、将来の構想が描けるので定住が進むと考えてます。当社は、IoT技術を使うことのスマートシティ及びコンパクトな街づくりにご協力をさせていただきます。また、各社との提携も可能ですのでフレキシブルに対応をより良き街づくりをさせて頂きたいと思えます。

※(1)(2)について、複数ある場合は項目毎に対応の記載をお願いします。

※既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、別途そのプロジェクト単独での提案も可能です。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)

IoTデバイス開発統括部	関野 功夫	03-5847-8402	sekino@goldenberg.co.jp
--------------	-------	--------------	--